

ラウンドトリップ構想

～回遊を楽しむ街づくり～

当該地区の現況

本構想は八幡東区の北部に位置する中央町地区～東田地区～枝光地区を対象としている。その当該3地区の現況は次のとおりである。

中央町地区

昔から商店街として栄え、人々の日常生活を支えてきたが、最近地元民の商店街離れが深刻化している。

東田地区

最近土地区画整備事業が完了し、今後、産業の高度化、スペースワールドを軸としたアミューズメント施設の充実、住宅地・商業施設の開発による生活基盤としての発展が期待される。

枝光地区

主に住宅地・文京地区としての役割を果たしており、洞海湾沿いには多くの工場が立地していると共に、ウインズ八幡を中心としたベイフロントの開発も進められている。

目的とテーマ

前述したとおり、この3地区は多種多様な用途に伴い、様々な人々の集う街である。ただ単にその人々が個々の生活を形成するにとどまらず、連携・調和・融合をとりつつ、人々の流れが一体化し回遊したくなるような、ふれあいと活気にあふれた街を形成することを目的とする。

⇒テーマ： 『ラウンドトリップタウン構想』 ～回遊を楽しむ街づくり～

コンセプト

現在抱えている問題点（次ページ現状参照）を解消しつつ、次のような空間を形成することをコンセプトとする。

回遊の空間

中央町から枝光ベイフロントおよび枝光地区の住宅街（枝光商店街～枝光駅）から枝光ベイフロントにかけての遊歩道を整備し、いつでも気軽に安全に、散歩がしたくなるような空間を形成する。

ふれあいと癒しの空間

枝光ベイフロントを整備し、人々が集い触れ合える空間を形成する。（既存の施設を生かし、さらに広場や浅瀬、オープンカフェなどを整備する。また、祭りなど地域に密着したイベントの開催などにより人々の集約を目指す。）

楽しむ空間

スペースワールド・自然史博物館・環境ミュージアム・シーサイドスパなどのアミューズメント施設の連携を強め、まる一日を近場で楽しめる空間として観光客も地元民も飽きない、つながりのある空間にする。

調和の空間

新しく開発する地区だけでなく、既存の中央町商店街・諏訪町商店街・枝光駅商店街それぞれの活性化を目指し、駅広場、道路整備など周辺環境の整備を行う。また、これらの商店街間と開発地区との連携をとり、新旧の調和を図る（裏通りの回遊）。

当該地区の現況

概況

- 北部・東部——住居・文京地区
- 西部——工業地区・ベイフロント
- 南部——アミューズメント施設・商業地区

JR 株光駅・駅前通（八幡戸畑線）

駅の老朽化が進み、もの寂しげな印象を受ける。駅前通りは八幡戸畑線のアクセス道路として利用されており、朝夕の交通量が特に多い。文京地区で歩行者が多いに関わらず、歩道が狭くJRの高架が周辺にあり圧迫感がある。



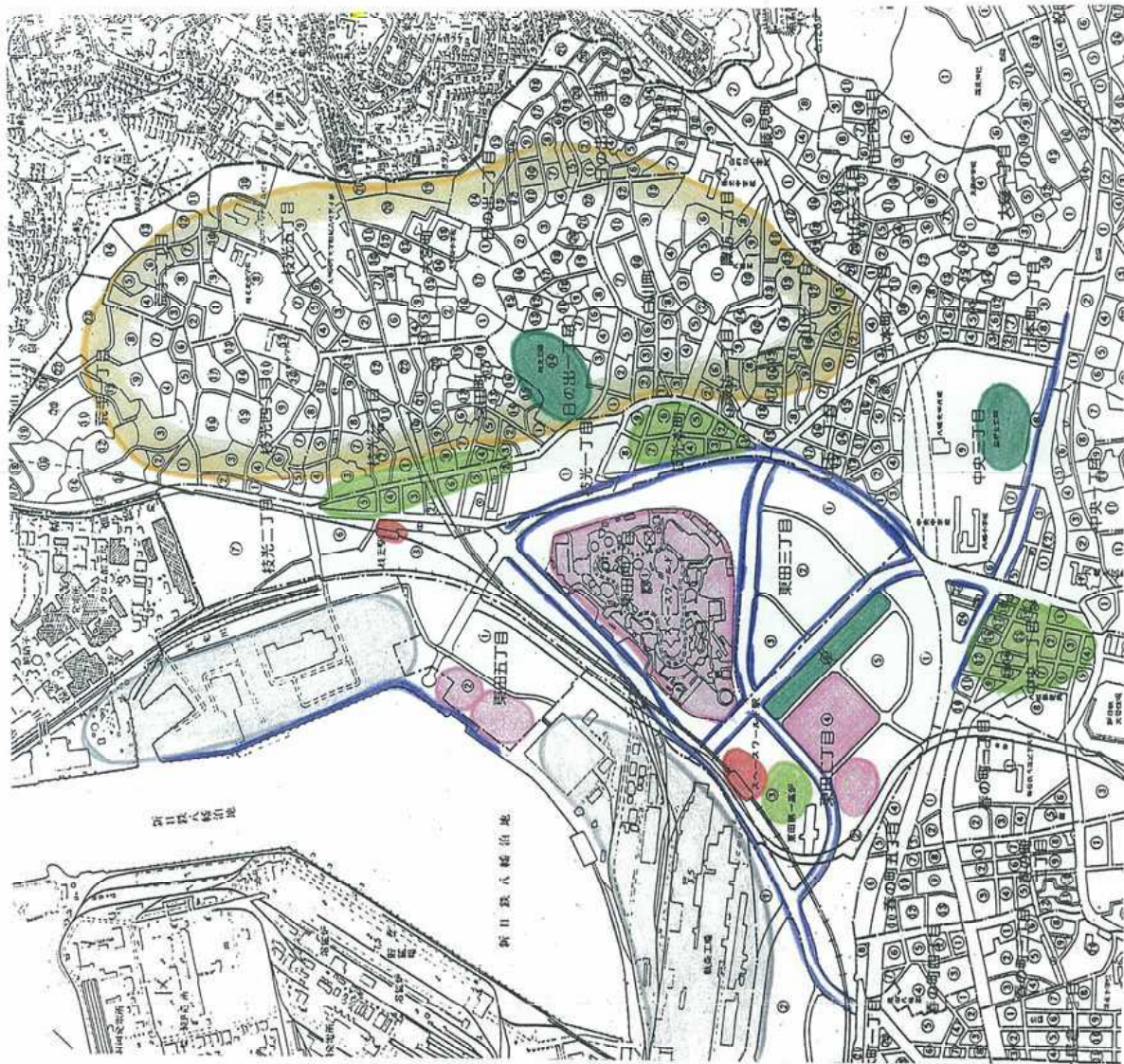
東田地区（ハーフロード）と八幡戸畑線

東田土地区画整備により、きれいに舗装された歩道・完全歩車分離など、歩行者に優しいスペース。しかし、周辺地区とのつながりに乏しく、孤立した印象を受ける。



ウィンズ八幡・シーサイド広場のベイフロント

さわやかな海風の吹くベイフロントには、広場と遊歩道が整備されている。しかし、周辺歩道の不整備により周辺地区からベイフロントへのアクセスは、ほとんどが車である。



凡例

- 住居・文京地区
- 商業地区
- 工業地区
- アミューズメント施設
- 整備済歩道
- 駅・駅前広場
- 公園

ラウンドトリップタウン構想

構想のポイント
 ベイフロント・回遊ルートを整備し、既存の施設がさらに引き立つようなつながりのある空間を形成する

